株式会社ジャパンディスプレイ
2013年度　決算説明会資料

2014年5月15日

ご注意（ディスクレイマー）

本資料は、株式会社ジャパンディスプレイ（以下「当社」または「JDI」といいます）の企業情報等の提供のために作成されたものであり、日本、米国その他の法域における当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。特に米国においては、当社の有価証券は米国証券法に基づく登録が行われておらずまたその予定もないため、登録免除規定の適用がある場合を除き当社の有価証券の勧誘または売却を行うことはできません。

本資料の内容は事前の通知なく変更されることがあります。本資料またはその内容については、当社の事前の書面による同意がない限り、いかなる目的においても第三者に開示されまたは第三者により利用されることはできません。

本資料に記載される業界、市場動向または経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性および網羅性について保証するものではありません。

また、本資料に記載される当社グループの計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、現時点における当社の判断又は考えにすぎず、実際の当社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外の個人消費その他の経済情勢、為替動向、スマートフォンその他の電子機器の市場動向、主要取引先の経営方針、原材料価格の変動等により、本資料記載の内容またはそこから推測される内容と大きく異なることがあります。

Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

アジェンダ

1. 2013年度及び第4四半期（4Q）の実績

2. 2014年度の業績見通し

3. 中小型ディスプレイの市場環境と当社の戦略

本資料における2012年度（FY12）の決算関連数値は、2013年4月1日の合併前の実質的な統括会社であった旧㈱ジャパンディスプレイの実績値を記載しております。（存続会社である旧㈱ジャパンディスプレイイーストの実績値ではありません。）

Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

アジェンダ

1. 2013年度及び第4四半期（4Q）の実績

2. 2014年度の業績見通し

3. 中小型ディスプレイの市場環境と当社の戦略

Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

2013年度 第4四半期連結業績

2013年度第4四半期は、主に季節要因による需要減により前期比（QoQ）では売上高、営業利益ともに減少も、対前年同期比（YoY）では改善。EBITDAはYoY大幅増

（億円）	Q4-FY13	Q4-FY12	YoY増減	Q3-FY13	QoQ増減
売上高	1,318	1,080	22.0%	1,618	△18.5%
売上総利益	156	100	57.4%	194	△19.3%
営業利益	55	△2	-	82	△32.9%
経常利益	4	25	△83.1%	90	△95.1%
当期純利益	4	△6	-	69	△93.7%
EBITDA	234	102	129.0%	244	△4.1%
減価償却費 ※1	180	108	67.3%	174	3.9%
研究開発費 ※2	35	50	△29.9%	43	△19.3%
平均為替レート（円/米ドル）	102.7	92.4	-	100.5	-
モバイル分野売上高比率	73%	65%	-	78%	-

※1 のれん償却費及び営業外減価償却費を含みます
※2 研究開発費は売上原価及び販売管理費に含まれる金額の合計です

Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

2013年度 連結業績予想値と実績の乖離

（億円）	2013年度			増減額 (B-A)	増減率
	3/19発表予想 (A)	4/28修正予想	実績 (B)		
売上高	6,234	6,142	6,146	△88	△1.4%
営業利益	304	272	276	△28	△9.2%
経常利益	226	193	191	△35	△15.9%
当期純利益	366	-	339	△27	△7.4%
EBITDA	930	-	903	△27	△2.9%

3月下旬、顧客事由による出荷遅れ及び中価格帯スマホ向けパネルの市場価格下落により価格交渉が難航し、見込んでいた製品の出荷を見合わせたことにより、業績予想を下方修正

Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

2013年度 連結業績

2013年6月に量産を開始した茂原G6ライン（J1）における生産を中心とした
Full HD 製品の出荷増により売上高、利益は前期比大幅に増加

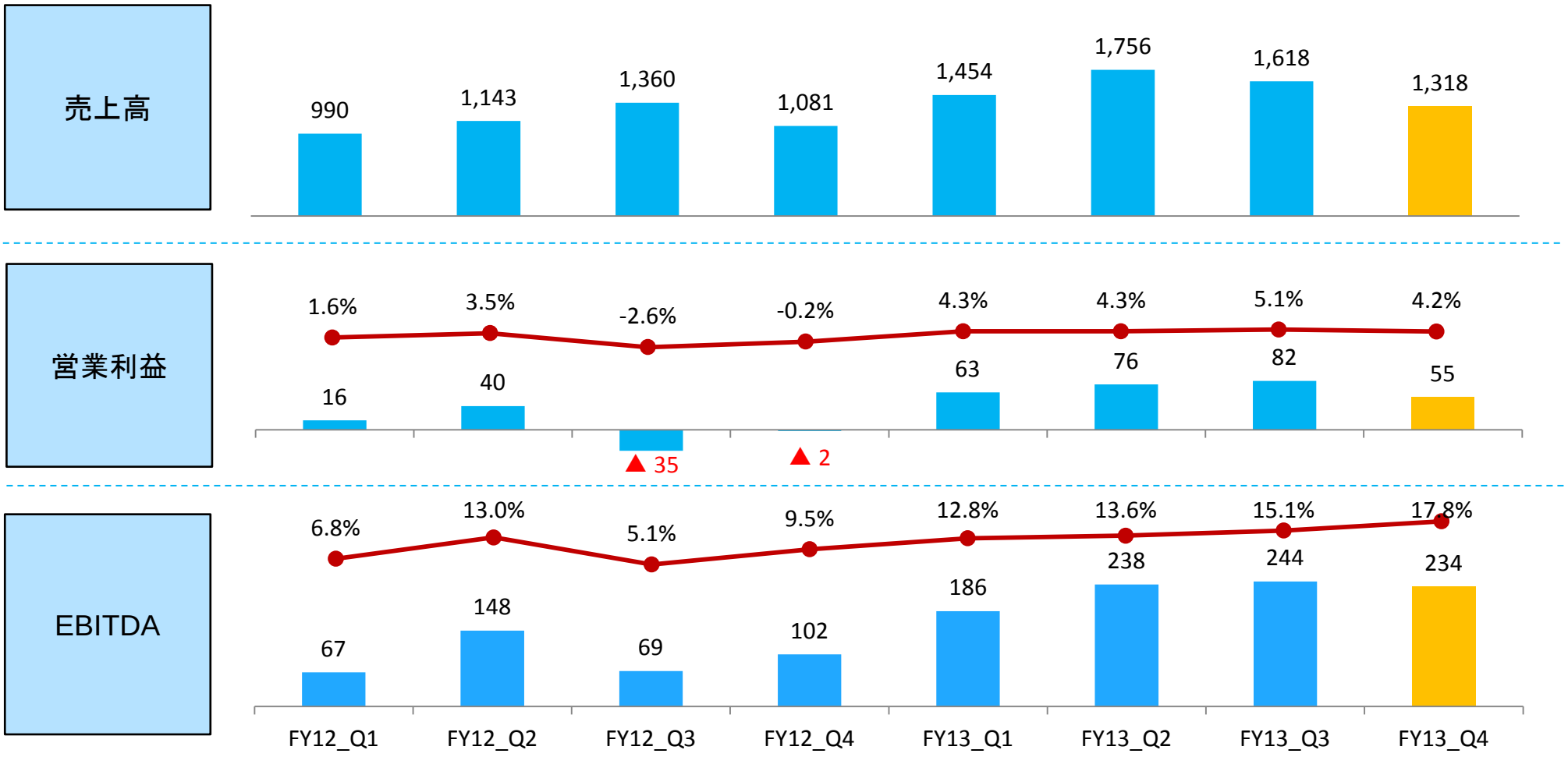
（億円）	2013年度		2012年度		増減額	増減率
売上高	6,146	100.0%	4,574	100.0%	+1,572	+34.4%
売上総利益	713	11.6%	470	10.3%	+243	+51.7%
販売管理費	437	7.1%	452	9.9%	△15	△3.4%
営業利益	276	4.5%	18	0.4%	+258	-
経常利益	191	3.1%	55	1.2%	+135	+244.1%
当期純利益	339	5.5%	39	0.9%	+300	+772.2%
EBITDA	903	14.7%	387	8.5%	+515	+133.2%
減価償却費 ※1	642		381		+261	68.6%
研究開発費 ※2	157 ※3		172 ※3		△15	△8.9%
平均為替レート（対米ドル）	100.2		82.9			-
モバイル分野売上高比率	77%		64%			-

※1 のれん償却費及び営業外減価償却費を含みます。
※2 研究開発費は売上原価及び販売管理費に含まれる金額の合計です。
※3 統合前の2012年度においては研究開発費を集計する手法が各社で相違がありました。実際には2013年度は2012年度と同等程度です。

Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

8四半期 連結財務情報

四半期別業績推移（単位：億円）



Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

2013年度 連結貸借対照表

（億円）	2014年3月末	2013年3月末	2013年12月末
現金及び預金	1,414	699	402
売掛金	971	954	1,201
在庫	906	629	820
流動資産合計	3,785	2,841	3,080
有形固定資産合計	3,438	2,892	3,426
資産合計	7,590	6,151	6,894
買掛金	1,016	1,158	1,327
有利子負債	1,025	662	1,135
前受金	668	867	718
負債合計	3,538	3,630	3,969
純資産合計	4,051	2,521	2,926
自己資本比率	53.5%	41.0%	42.4%
ネットDEレシオ	-9.5%	-1.4%	25.1%

Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

在庫状況

在庫の低減は経営課題として認識しています

（億円）	2014年3月末	2013年3月末	2013年12月末
【在庫金額 （億円）】			
商品・製品	253	311	331
仕掛品	483	162	323
原材料・貯蔵品	169	156	166
在庫合計	906	629	820
未収入金 ※1	234	450	384
在庫＋未収入金	1,140	1,079	1,204
【在庫日数 （日）※2】			
在庫合計	62	52	46
未収入金	16	37	21
在庫＋未収入金	78	90	67

※1 未収入金の主なものは、後工程外注先への有償支給分
※2 在庫日数 ＝ 期末在庫 ÷ 四半期売上高 × 90日

Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

2013年度 連結キャッシュフロー計算書

（億円）	2013年度	2012年度	増減額
営業キャッシュフロー	397	△297	+694
投資キャッシュフロー	△1,229	△1,554	+325
財務キャッシュフロー	1,520	83	+1,437
その他	28	36	△8
期末現預金残高	1,414	699	+715
フリーキャッシュフロー※1	△832	△1,851	+1,019

※1　フリーキャッシュフロー：　営業キャッシュフロー＋投資キャッシュフロー

Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

2013年度 事業成果と反省点

【成果】

- 2013年4月　㈱ジャパンディスプレイイーストを存続会社として、4社合併
  システム統合、人事制度等の制度統一。分散機能／人員を統合・再配置
- 茂原G6ライン（J1）：　2013年6月量産投入開始、50Kシート/月化投資決定
- Taiwan Display Inc. (TDI) 設立。中国の中価格帯スマホ市場（ボリュームゾーン）攻略に着手
- 車載製品を鳥取工場に集約。2014年3月に石川G3　a-Siラインを閉鎖
- OLEDパイロットライン設備搬入完了
- モバイル分野においてFull HD以上の解像度の出荷拡大
- 反射型LCD出荷開始
- 2014年3月 株式上場

【反省点】

- 中価格帯スマートフォン市場への対応の遅れ ⇒ 2014年度下期からの挽回に向けて対応中
- 大口顧客および新製品企画の落ち込みに対するリカバリーのスピード感が不足
- J1ラインの立ち上げにおいて大きな歩留り損失を発生させた

Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

アジェンダ

1. 2013年度及び第4四半期（4Q）の実績

2. 2014年度の業績見通し

3. 中小型ディスプレイの市場環境と当社の戦略

Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

2014年度上期･通期　業績予想

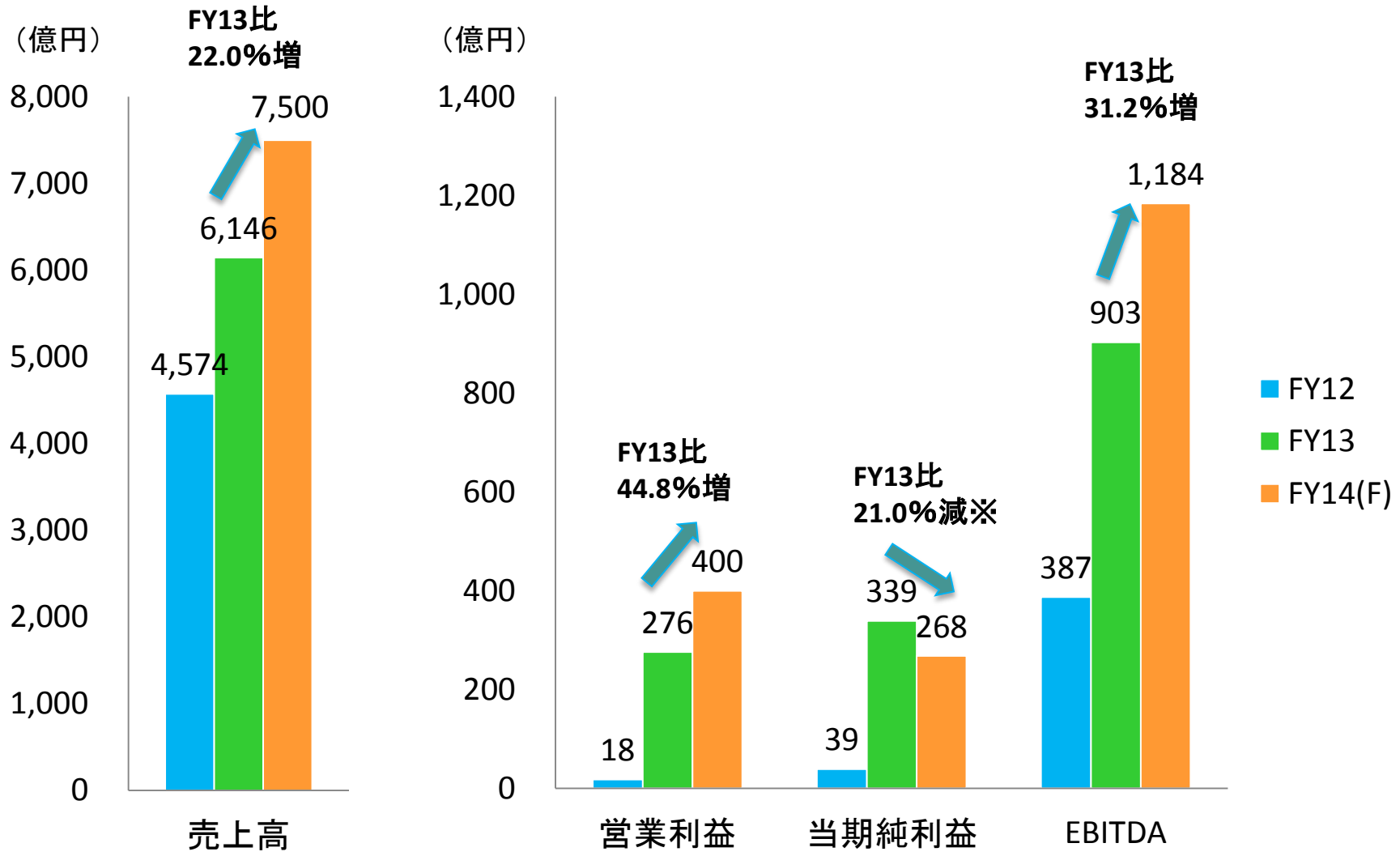
（億円）	2014年度 上期（予想）		2014年度 通期（予想）		2013年度 通期（実績）		通期 増減額	増減率
売上高	3,100	100.0%	7,500	100.0%	6,146	100.0%	+1,354	+22.0%
営業利益	10	0.3%	400	5.3%	276	4.5%	+124	+44.8%
経常利益	△32	△1.0%	315	4.2%	191	3.1%	+124	+65.2%
当期純利益	△32	△1.0%	268	3.6%	339	5.5%	△71	△ 21.0%
EBITDA	383	12.0%	1,184	15.8%	903	14.7%	+281	+31.2%
減価償却費 ※1	373		784		642			
研究開発費 ※2	-		229		157			
為替レート（対米ドル）	101.0		101.0		100.2			
モバイル分野売上高比率	77%		81%		77%			

通期為替感応度：
対米ドルで1円変動あたり売上高約55億円、営業利益約16億円の変動見込みです

※1　のれん償却費及び営業外減価償却費を含みます。
※2　研究開発費は売上原価及び販売管理費に含まれる金額の合計です。

Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

業績の推移



※ 前期の当期純利益には繰越欠損金等に係る繰延税金資産の計上による法人税等△175億円が計上されています。

Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

2014年度 業績予想前提

2014年度:

- 新製品立ち上げロス、TDI事業の立ち上げスピードなどのリスクを織り込む
- Pixel Eyes™の出荷数量は対前年比約4倍に急拡大の見込み
- 中国市場向けの売上高は、販売増加に伴い約1,800億円（前年度比2.7倍）となる見込み

第1四半期:

- 欧米・国内の出荷減少により、売上高は1,200億円程度に留まる見込み。4月をボトムに5月から改善
- 販売価格の下落と一時的な製品ミックスの悪化により、100億円超の営業赤字を予想

第2四半期以降:

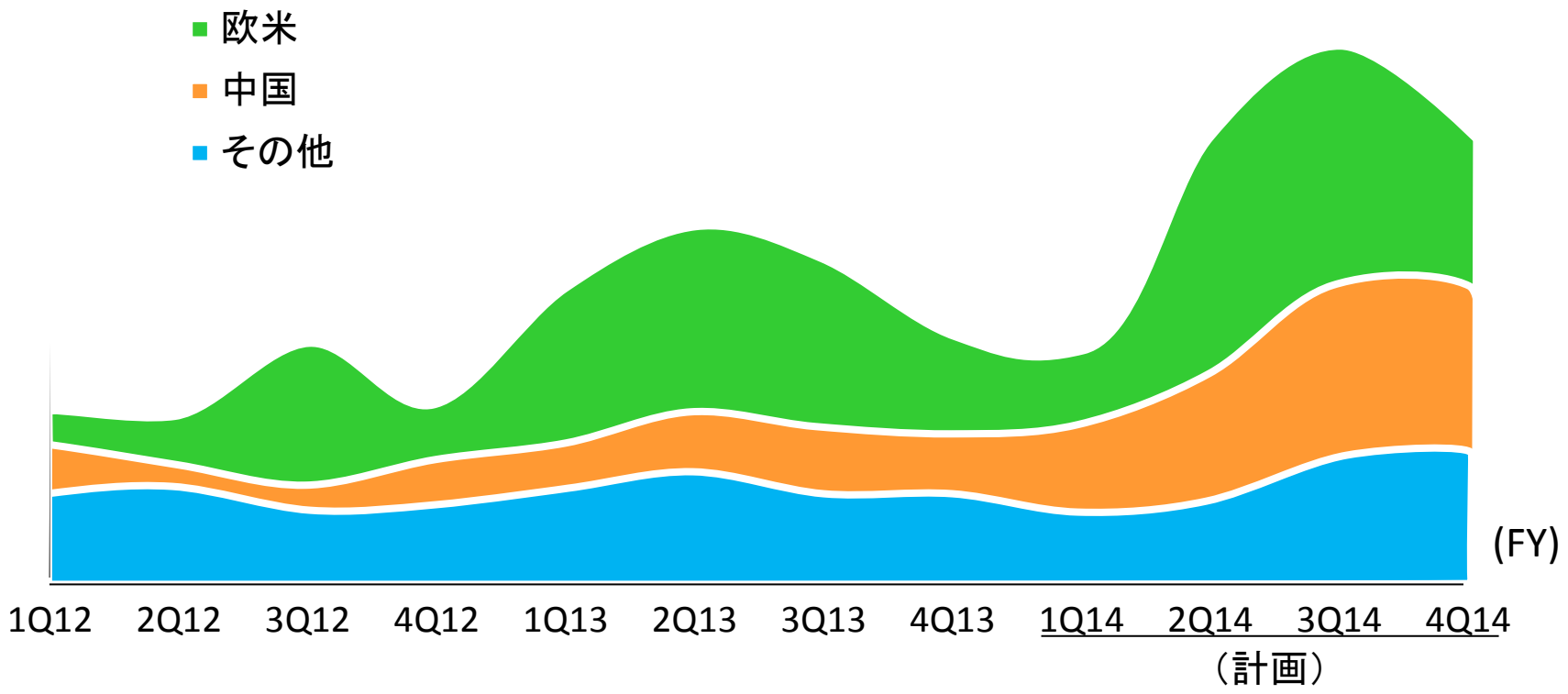
- 新製品の立ち上がりに加えて、欧米顧客向けの出荷増が寄与し、2Q以降の売上高は増加見通し
- 下期にはPixel Eyes™製品の投入により中国市場向けセミカスタム製品の出荷拡大。後工程や調達のコスト改善も寄与し、限界利益率も回復することから、営業利益は大幅改善の見通し

Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

四半期別売上高の変動

Q2以降は欧米顧客向け出荷増が寄与する見通し。中国向けも顧客開拓と
コストダウンが軌道に乗りつつあり、下半期より出荷拡大

モバイル分野顧客地域別売上高の推移



Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

キャッシュフローの推移

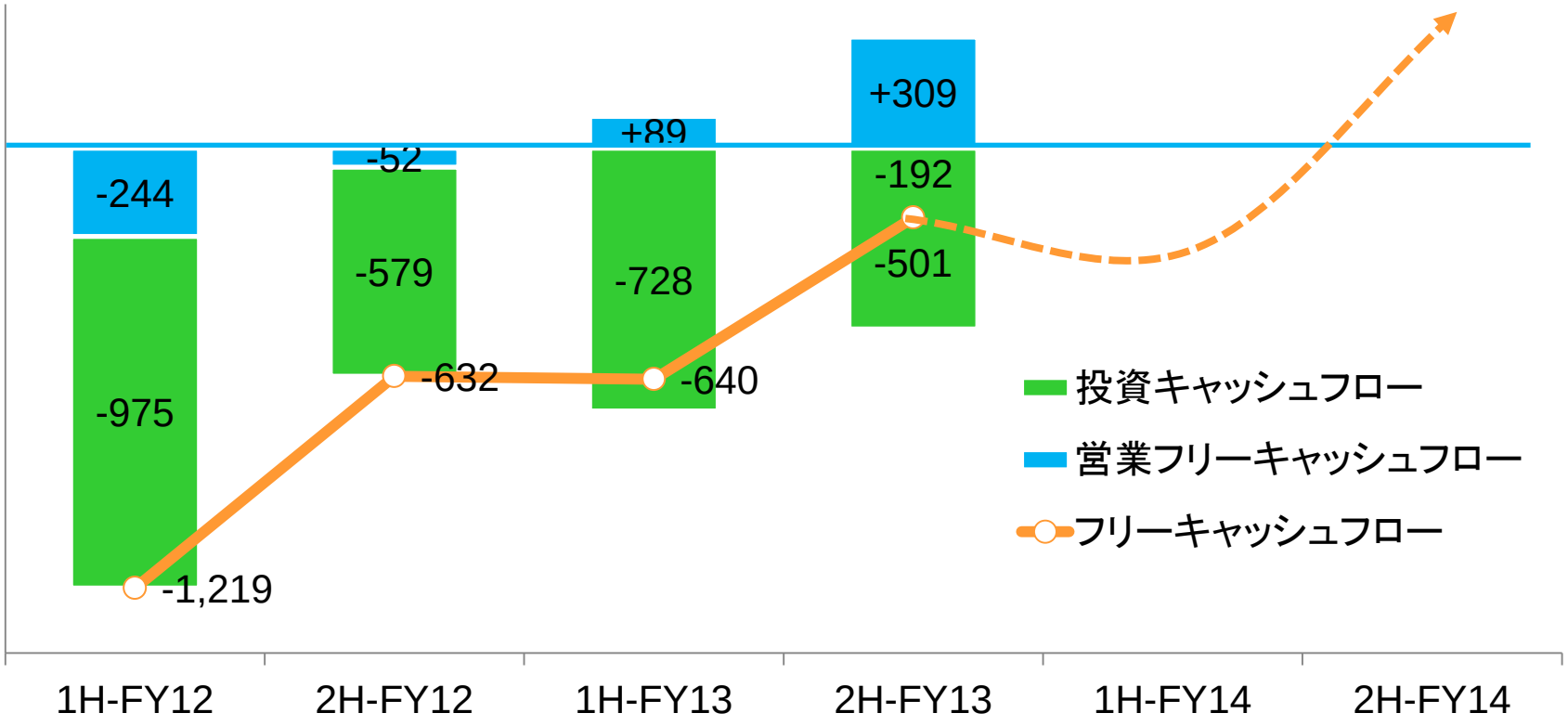
EBITDAの改善によりフリーキャッシュフローは改善、2014年度の下期にはプラス水準へ

（億円）

12年度
減価償却費　381億円
設備投資額 1,505億円

13年度
減価償却費　642億円
設備投資額1,215億円

14年度（予）
減価償却費　784億円
設備投資額　970億円



Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

アジェンダ

1. 2013年度及び第4四半期（4Q）の実績

2. 2014年度の業績見通し

3. 中小型ディスプレイの市場環境と当社の戦略

Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

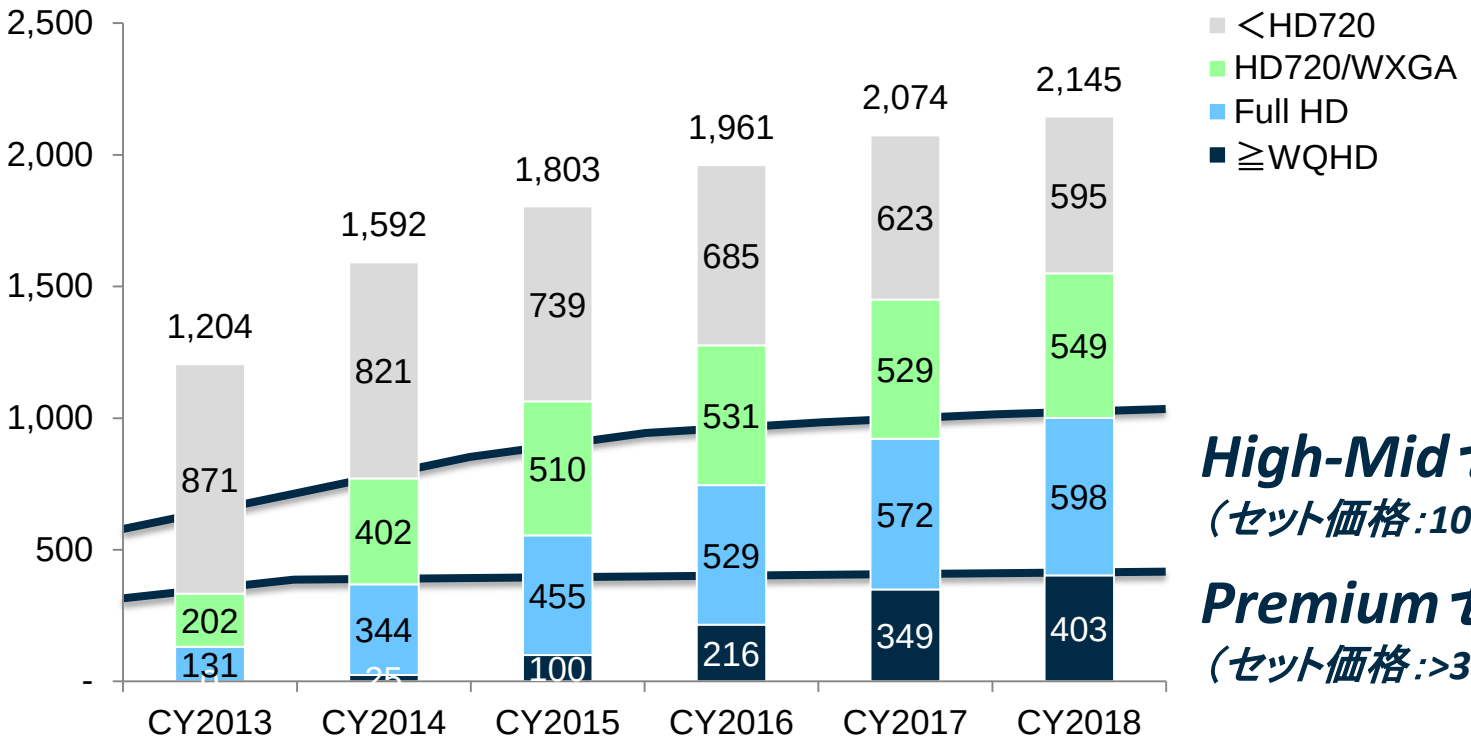
事業環境認識および当社戦略方針

- スマートフォン市場は当社想定通りの高精細化が進展
  - Premium価格セットはWQHDへ、High-Mid価格セットもFHDに移行していく見通し（a-Siでは歩留り観点からコスト競争力を維持することが困難な市場へ）
  - TDI戦略を更に加速化し、中価格帯領域でのコストイノベーション展開へ驀進する
- 今後、当社は業界最大のLTPSキャパシティを背景に、“独自の強み”を持つコストソリューションで早期に巻き返す
  - 独自の強み①）業界最大のLTPSキャパシティ
  - 独自の強み②）FHDに代表される高精細領域でのLTPSの歩留り競争力
  - 独自の強み③） Pixel Eyes™に代表される抜本的なシステムインテグレーション技術
- 上記の強みに立脚してのモバイル市場攻略を軸として、車載など安定的市場の取り込みも併せた拡大を目論む

Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

スマートフォン市場のトレンド

スマートフォンディスプレイ市場規模（数量, M pcs）



High-Mid セット搭載領域
（セット価格 :100-299USD）

Premium セット搭載領域
（セット価格 :>300USD）

Source : NPD DisplaySearch (April 2014)、Strategy Analytics（2014年4月）

スマートフォン市場は当社想定通りの高精細化が進展。
High-MidセットもLTPSがコスト競争力を発揮するFHDクラスの市場へ

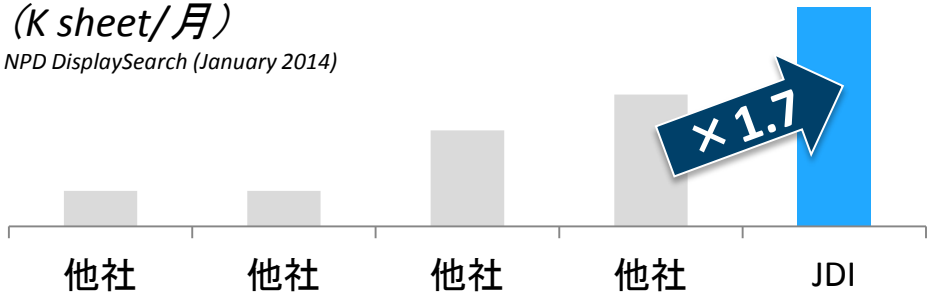
Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

スマートフォン市場攻略に向けた当社の強み

1. LTPSの圧倒的なキャパシティ

第2位競合に対し×1.7倍のキャパシティを保有（NPD DisplaySearch予測）

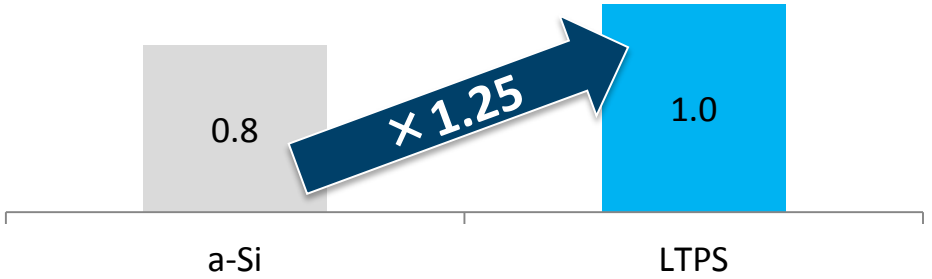
【LTPSキャパシティ、CY14】
（K sheet/月）
NPD DisplaySearch (January 2014)



2. FHDなど高精細領域におけるLTPSの歩留り競争力

高精細領域においては、
LTPSの歩留り優位性が優れており、
不良コストでa-Siに優位

【5” FHD製品の歩留り競争力比較、当社製品例】



3. 抜本的コスト低減を可能とするPixel Eyes™（インセル技術）

モジュールコストで大きなウェイトを占めるタッチコストを抜本的に減少可能
※TODなどオンセルソリューションに対しても、
センサー形成に起因する歩留り要因で優位と思料

【Pixel Eyes™ 製品と、a-Si外付けタッチ製品のコスト比較】

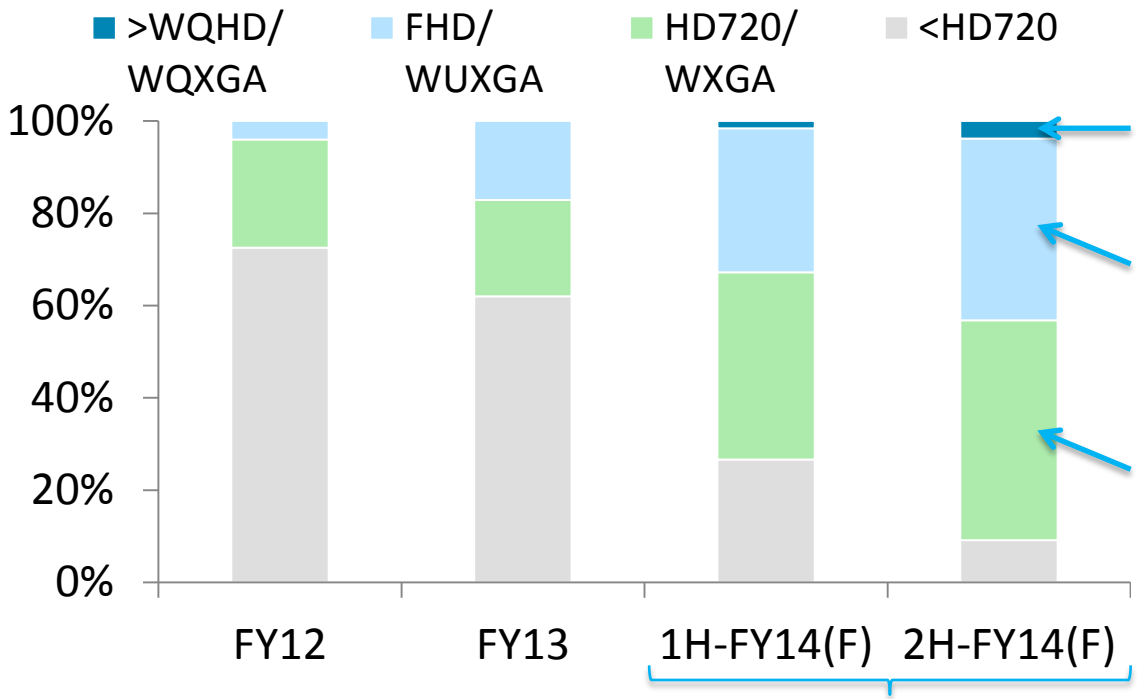


Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

当社戦略の進展状況

スマートフォン解像度別JDI出荷構成比（%）

解像度構成比



WQHD出荷見込

FHD構成の急拡大（Pixel Eyes™活用）

ローコストモデル浸透（Pixel Eyes™活用）

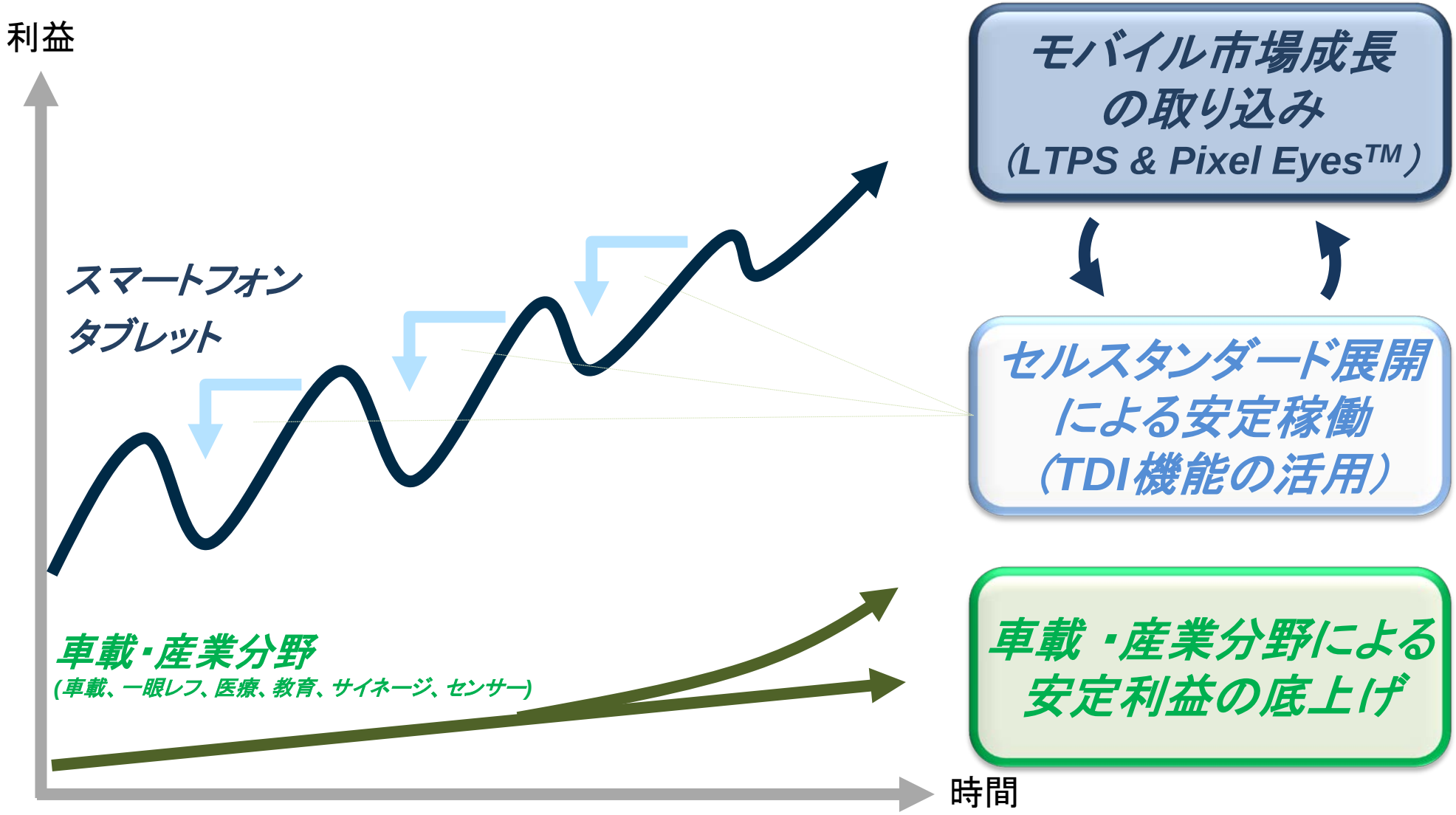
	FY12	FY13	1H-FY14(F)	2H-FY14(F)
Pixel Eyes搭載製品	—	×1.0（数量）	×4.0（数量）	

Pixel Eyes™製品は約4倍へ拡大見通し

スマートフォン市場攻略に向け、製品戦略の加速を着実に進めており、中価格帯市場においても競争力を発揮可能と思料

Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.

モバイルを中核として目指していく事業ポートフォリオ



Copyright © 2012 Japan Display Inc. All Rights Reserved.